

キャラクター名 ユズ・ハピィ・シーメニー プレイヤー名

種族	ナイトメア	種族特徴	異貌、弱点[土、銀+2]		
生まれ	操霊術師	性別	女	年齢	15
冒険者Lv	13	経歴	本から大きな影響を受けたことがある（魔導書）		
経験点	2460		大きな遺跡を発見した事がある まだ恋をしたことがない		

能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
器用度	3	5		13	2	コンジャラー	10		
敏捷度	3	6		14	2	セージ	7		
筋力	1	9		22	3	エンハンサー	5		
生命力	5	13		30	5	グリモワール	13		
知力	12	22		47 + 1	8	アーティザン	7		
精神力	11	18		42	7				

戦闘特技		言語	会話	読文
ルーンマスター	IB34 p	交易共通語	○	○
鋭い目	2120p	神紀文明語		○
弱点看破	2121p	ドラゴン語	○	
魔法拡大/数	IB39 p	汎用蛮族語	○	○
武器習熟A/スタッフ	IB31 p	魔神語	○	
マルチアクション	IB39 p	魔法文明語	○	○
魔力強化	IB32 p	妖精語	○	
魔器習熟A	AG43p	リザードマン語	○	
魔器習熟S	AG43p	ザルツ	○	○
魔晶石の達人	IB32 p			

練技/呪歌/騎芸/賦術	
アンチボディ	魔力増強/+1
ストロングブラッド	魔法クリティカル増強/+1
メディテーション	戦場把握
ビートルスキン	MP自動回復/+1
スフィンクスノレッジ	回復効果クリティカル
パラライズミスト	魔力超増強/+2
ヴォーパルウェポン	
バークメール	
クラッシュファンク	
エンサイクロペディア	
魔物知識増強/+2	
秘奥ダメージ増強/+1	
誤射防止	
能力値増強/+2	

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要 ランク				筋力				回避力				防護点									
鎧	イスカイアの魔導鎧					20																	
盾																							
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)																2							
回避技能												合計値				0				9			

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
編み棒 ナイフ互換	1H投	1		2d+ 0	10	0	1										
スパイラルホワイトロッド <small>なんか編み棒の形してる 魔法の最終ダメージ+2 ルシエロイネ魔導術の秘伝が使える</small>	1H	1	1	2d+ 1	12	1	6										
ルミナストーム <small>AC数:3 MP:15 呪印: [秘奥ダメージ増強+1] [魔法増強+1] [魔法クリティカル増強+1]</small>	1H	1		2d+ 0		0											
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
3 m	16 m	48 m	2d+ 0	9	66	操霊魔法	10	20			
						秘奥魔法	13	23			

装備品	説明
頭 アーティザンハット/3	AC数:3 MP:15 呪印: [魔物知識増強+2] [誤射防止] [戦場把握]
耳 数多の蝙蝠の耳飾り	
顔 学者の眼鏡	
首 血水晶のチョーカー	
背中 インテリアニマルサック	
右手 アーティザンリング/1	AC数:1 MP:5 呪印: [能力値増強+2]
腰	
足	
その他 知性の指輪	

その他メモ	自動失敗 チェック
楽天家なナイトメアの少女。 元々操霊術師として冒険者をしていた時に、魔法文明の遺跡を発見。 その遺跡の最奥にて魔導書と魔器、人形を見つけ、その人形——どうやら人型のインテリアニマルサックだった様子——から魔器の扱い方と秘奥魔法を学ぶ。 その後、元々所属していたPTを抜けてルキスラにやって来た。	□□□□⑤ □□□□⑩ □□□□⑱ □□□□⑳ □□□□㉕ □□□□㉙ □□□□㉚
人型のアニマルサックを手に入れてから、何故か作り出すゴーレムが緑色や黒、ピンクの謎の生物型に固定されるようになった。 どうやらサックのお気に入りらしいが、なぜ干渉出来るのかは謎。 サックをからかうためによく「くさあーっ！」と刺す振りをしている。 ライロック魔刃術の流派に師事してからはたまに本当に刺すようになった。	

